



**世界を知る  
オール  
ラウンダー**

**谷川  
穂穂**

東京、パリと2度のオリンピックを経験し、世界水泳にも出場する谷川穂穂(経営3)。3度目の出場となる今年開催の日本学生選手権ではどのような泳ぎを見せてくれるか注目したい。

専門種目である個人メドレーは、前半から飛躍するところが強みと、自分の泳ぎについて語る穂穂は、自身の強みと自由形に得意とするバタフライと自由形に加え、本人と語り合っていたバタフライの強化を取り組み、4泳法すべてがバタフライよままとまったレース展開が持ち味だ。昨年7月の世界水泳出場前に「自分を信じて泳ぎが速くなるからさらさら強くなれる」と語っていた穂穂は、自分の中で強い意志を持っていくことも彼女の魅力の一つだ。また谷川は、レース後半の全員の疲労が見えてくる部分でも精神力で大切に、自分自身を奮い立たせながら泳ぎをこなしている。その最後まで諦めない芯の強さは、誰にも負けないだろう。

世界のライバルたちとの勝負を享受し、迎える大会。昨年の日本学生選手権では400個人メドレー準優勝という結果に終わった。私は私らしくまた強くなり、またと今年の大会に自身のInstagramに投稿した谷川(記念すべき第100回となる今回は、その頂にたどり着く姿に期待したい)。

大学生生活後の日本学生選手権となる森本哲平(経営3)。バタフライを専門に泳ぐ森本は、最後のインカレでどのようなレースを展開していくのか。森本は男子100バタフライ、男子200バタフライ、男子4×100メドレーの3種目に出場予定。

昨年度の日本学生選手権で記録した1分54秒74というタイムが自身を持つ200バタフライのベストタイムである。この結果で世界水泳への代表選手入りを果たし、世界のライバルと戦った。準決勝まで勝ち進み健闘を見せたが、惜しくも全体10位で決勝進出を逃した。メダル争いを繰り広げることを見据えていた森本は、この結果を物陰で喜んでいた。試合後の「もっと活躍できるように選手になりたい」との言葉から、森本の水泳への想いが伝わる。

レース後にかけてのサポートが持ち味だ。8月に行われた関西学生選手権の200バタフライでは自己ベストに及ばないものの、大会記録を更新する好タイムを叩いた。この大会後は森本は「1分54秒前後もしくは1分55秒で泳いで、自己ベストを更新したい」と日本学生選手権への意気込みを話した。

近畿大学水泳競技部を「日本一面白いチーム」と語る森本が、ハワフルな泳ぎで作る優勝への波に期待したい。



**バタフライのスペシャリスト  
森本哲平**

**関西の圧倒的王者**

2024年8月13日 火曜日  
近大スポーツ  
発行 近畿大学体育部  
発行所 近畿大学体育部  
近畿大学体育部  
近畿大学体育部

**近畿大学**



**黒川紫唯**

**頂へ導く主将**

山口哩駆(経営1)は、5月の関西学生選手権ビオニック水泳競技大会で、近畿大学水泳部として400個人メドレーの記録を破り、大会新記録を樹立し、8月の関西学生選手権においても400個人メドレー大会新記録を叩き出すなど、一年がかりで数々の記録を刷新している。山口の専門種目は個人メドレー。高校時代には世界ジュニア選手権400個人メドレー優勝、全国高校総体男子200バタフライ優勝と輝かしい記録を持つ。最低でもメダル獲得を望むと語っていた山口は、すでに目標場所は全国の頂点、関西学生選手権後のインカレでは400メドレーでは優勝、200バタフライでは最低でもメダル獲得を目指していきたいと意気込んでいる。有言実行となるか期待したい。また、天皇杯獲得のために「コーチに貢献できるように頑張りたい」と語った山口は、入部してから3ヶ月にして近畿大学水泳部への主力選手へと駆け上がった。大学日本一の差をかけて国から精鋭が集まる大会、彼の泳ぎが天皇杯獲得のための重要な役割を担うことが間違いないだろう。飛躍し続ける期待の一年が、全国の舞台で輝く姿を目に焼き付けたい。



**近大のエース  
難波実夢**

**近大の麒麟児  
山口哩駆**



世界水泳、オリンピックと数々の大舞台を経験してきた難波実夢(経営4)。第100回目を迎える日本学生選手権の個人種目では、女子400個人メドレー自由形の2種目に出場する。難波の専門は自由形。中距離から長距離まで得意としている。今年3月に行われた競泳国際大会代表選考会で難波は、女子400個人メドレーに出場。4分06秒10とわずか派遣標準記録を上回ることで、自己ベストに迫るタイムで自己ベストを叩き出した。そこから日々練習を積み重ね、5月に行われた関西学生選手権水泳競技大会と8月に行われた関西学生選手権水泳競技大会は出場したすべての種目で1位を獲得する強さを見せた。関西学生選手権の女子400個人メドレーでは自己ベストに迫るタイムで自己ベストを叩き出した。それをさらに伸ばし、難波の持ち味は、柔らかな足音を生かしたキック。そのキックから生まれるラストの伸びが日本学生選手権で見られるのか。

大学4年間で世界のレベルを知り、代表入りを経験し、そして経験した難波。今年が最後となる日本学生選手権で、どのような泳ぎを見せてくれるのか、活躍に目撃せたい。



**頂  
勝たなおもろない**

**KINDAI SWIM**  
Inter College Swimming Championships 2024

記事・レイアウト 片岡花菜、岩井美晴、鹿間透子